

令和4年第2回(6月)定例会 会議録【中島】

「子ども・子育て支援について」(児童館)

令和4年6月15日(水) 10:00～

○11番(中島章二君) [登壇]

まず、1項目めの子ども・子育て支援についてです。

日田市では、市町村合併以前から、児童福祉法第40条に規定する児童厚生施設として児童館が設置されています。現在は、中央児童館、大山児童館、松原児童館、天瀬児童館の4つの児童館が設置・運営されています。

そこで、児童館設置の目的と設置の経過、現在の児童館の職員体制についてお聞かせください。

また、現在の4館ごとの利用実績をお聞かせください。利用実績から、4館を比較しての課題をどのように捉えているのかお聞かせいただきたいと思います。

そして、課題として捉えていることに対し、どのような対策を講じているのか、4館を通して児童館設置目的を達成するためにどのような取組をしているのか、併せて今後の児童館の在り方について市の考え方をお聞かせください。

○議長(石橋邦彦君) 福祉保健部長。

○福祉保健部長(松岡政則君) [登壇]

私からは、11番議員さんの御質問のうち、子ども・子育て支援についてお答えいたします。

まず、日田市児童館の設置状況と実績についてでございます。

児童館は、児童福祉法第40条に規定する児童厚生施設の一つで、遊びを通して子供たちの健やかな成長を図り、情操を豊かにするための施設で、中央児童館をはじめ、天瀬児童館、大山児童館、松原児童館の4館を設置しており、おおむね小学生までの子供たちが利用しています。

各館の開設時期につきましては、中央児童館が平成14年、天瀬児童館が平成5年、大山児童館が平成7年、松原児童館が昭和47年にそれぞれ開設しております。

職員体制でございますが、中央児童館には館長1名、保育士1名、児童厚生員2名の合計4名、また、天瀬児童館、大山児童館、松原児童館のそれぞれに児童厚生員を2名ずつ配置しているものでございます。

次に、児童館の利用状況でございますが、令和3年度における延べ利用者数は、4館の合計で年間延べ9,234人となっており、その内訳につきましては、中央児童館が7,695人、天瀬児童館が769人、大山児童館が649人、松原児童館が121人となっております。

平成31年度には、4館合計で延べ利用者数が2万人を超えておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響下におけるイベント等の縮小や中止などによって大きく減少している

ものでございます。

次に、4館を比較しての課題でございますが、本市におきましても少子化が進む中、市の中心部に位置する中央児童館と、周辺地域に位置する他の3館を比べますと、施設周辺の子供の数とともに、年間開館日数が中央児童館と比べ、天瀬及び大山児童館で50日程度、また、松原児童館で200日程度少ないこと、また、市中心部と周辺部で位置しており、その違いがあることから中央児童館の利用数に差が生じているものでございます。

いずれにいたしましても、児童館は、遊びを通して子供たちの健やかな成長を図り、情操を豊かにすることを目的とする施設であるとともに、子育て親子の交流の場の提供や、子育てなどに関する相談や援助など、地域における子育て支援を推進する施設でありますことから、どの児童館であるかにかかわらず、その達成に向けて地域の実情、また、そこの子供たちの実情に応じた支援を行っており、今後も継続してまいりたいと考えているところでございます。

私からは以上でございます。

○議長(石橋邦彦君) 11番 中島議員。

○11番(中島章二君) それでは、子ども・子育て支援についてから再質問をさせていただきます。

まず、児童館ですが、利用実績が4館を比較すると差があるようですが、先ほど登壇の中で利用について述べられていました。これについて再度お聞かせいただきたいと思いますが、よろしくをお願いします。

○議長(石橋邦彦君) 福祉保健部長。

○福祉保健部長(松岡政則君) 日田市にあります4つの児童館、これにつきましては、中央児童館は市の中心部、中城町にありますけれども、あと大山、大山の松原、そして天瀬ということで周辺部にあるものですから、やはりその周辺にいる子供たちがそもそも少ないということが、まず一番だと思います。また、そこにあるに当たって、アクセスがやはり遠いという部分も、市全体の子供さんたちから見ればあるということだと思っております。

○議長(石橋邦彦君) 11番 中島議員。

○11番(中島章二君) 先日の予算審議のときの資料によりまして、令和元年の実績が出ていましたが、それでいきますと天瀬児童館は1日5.3人、それから大山については3.6人、松原については3.9人、中央児童館については60.8人の利用者があったように私のほうでは計算をしたところです。

こちら、中央児童館については利用の方がたくさんいらっやあって、機能を果たしているのかなと思っておりますが、天瀬、大山、それから松原につきまして、なかなか実績が伸びていない。コロナ禍というものもあるのを先ほども理由として挙げられていましたが、しかしながら、この一桁台の利用者ということは、非常に児童館の設置目的について、なかなか達成に値しないのではないかと思っております。

これについて、先ほど部長のほうで、アクセスについてということ、それから周辺にいる子供自体が少ないということをおっしゃっていました。こちらのほうについて、少ないのであれば、利用

者が少なくてもいいのか、いいと思っていらっしゃるのか、それとも少ないけど、中央児童館と同じように利用者が増えるような、こちらのほう、市のほうが周知それから呼びかけをしていっているのかということをお聞かせいただければと思います。

○議長(石橋邦彦君) 福祉保健部長。

○福祉保健部長(松岡政則君) 児童館、今申し上げましたように、どうしても子供たちの数が違うというところもあります。その児童館に行くまでが、アクセスがというところがありますので、とはいいいながら、それをそのまま放置という形ではなくて、やはり児童館があって、こういったイベントをやっていますよとかいうことを子供たちに周知をする。例えば大山でいえば、振興局を事務局といたしましては、子ども会議というのがあります。そういったところで子供に関係する関係者が集まったりとかする会議もありますけども、そういったときにも児童館というのはこういうことをやっているから、ぜひお知らせをしてくださいと、そういったこともさせていただいておるところでございます。

児童館自体を、場所を動かすということは、なかなかできませんので、例えばいわゆる移動児童館、そういったものも今ちょっとコロナの関係もあって止めている部分もありますけども、そういうのも機会を見てまたやっていくということも考えたいというふうに思っております。

○議長(石橋邦彦君) 11番 中島議員。

○11番(中島章二君) 私のほうで、場所によって利用のしやすさに差があるのではないかと考えているところで、今、お聞きしたところです。

今、部長のほうから移動児童館という考えがあるということですけど、こちらについて、移動児童館という方式で、これまでも実際活動を行ってきたことがあるのかについて、まずお聞かせいただければと思います。

○議長(石橋邦彦君) 福祉保健部長。

○福祉保健部長(松岡政則君) 全ての館で行っていたというわけではありませんけども、例えば天瀬児童館、これを東溪小学校ですとか、いつま小学校ですとか、そういったところで、回数的にもそんなに多いわけではなくて、年に数回程度でありますけども、土曜日の午前中とかそういったところで行ってきた実績もございます。

○議長(石橋邦彦君) 11番 中島議員。

○11番(中島章二君) こちらのほう、どうしても周辺部になりますと、交通の便とそれから放課後の時間についても、小学校のほうではスクールバスで下校してしまうというような状況もあるかと思えます。そういったところで、子供たちも行きたくてもなかなか行けないという状況、大山のほうはもう学校のすぐ横に館が設置されていますけど、なかなか利用者が増えていないという状況もありますので、そういったところで利用しやすさに差が出てきている状況を何とか解消していくという手だてが必要かと思えます。

児童館につきましては、いろんなパターンで開催ができると思えます。各地区公民館のほうでも、協力体制を取りながらできるのではないかと考えていたりしていますし、他の放課後児童クラブ等の協力体制を取るとかいうことも可能かと思えますけど、今私が申し上げたよ

うな内容について、これまで検討されたようなことはございますでしょうか。

○議長(石橋邦彦君) 福祉保健部長。

○福祉保健部長(松岡政則君) 具体的にそういったところの協議というところまでは入っておりませんが、今後検討の中に入れていきたいと思っております。

○議長(石橋邦彦君) 11番 中島議員。

○11番(中島章二君) 周辺部の子育て環境の整備ということで、いろんな既存の施設、それから人材を活用して子育て環境を整えていくということが、日田市にとってもこれから必要なことではないかと思っておりますので、今、部長のほうがおっしゃっていただいた部分につきまして、しっかり検討そして実現できるようにお願いできればと思っております。

そして、これについても、周辺部と中心部の子育て環境の格差があってはならないという大前提ですけど、この子育て環境改善について、周辺部との環境格差について、あってはならないと思いますが、市のほうとして、子育て環境の格差についてはどのようにお考えがあり、今後対応していこうと思っておりますのかお聞かせいただければと思います。

○議長(石橋邦彦君) 福祉保健部長。

○福祉保健部長(松岡政則君) 格差といいますか、地域の実情に応じた形をどうやってやっていくのかということも考えながら、基本は同一サービスの中でも、その辺も考慮してやっていきたいというふうに思っております。

○議長(石橋邦彦君) 11番 中島議員。

○11番(中島章二君) もうどこに住んでいても同一のサービスが受けられるという大前提の下、対処法をこれから考えていくということで、ぜひお願いできればと思っております。

確認になりますが、児童館につきましては、目的としまして、児童に健全な遊びの場を提供するとともに、必要に応じ集団的指導または個別的指導を行う。子育てサークル、子供会その他の児童の健全な育成を目的とする団体の活動を支援する。児童の保護者に育児のための便宜を提供することなどの事業を行うと条例にあります。このような事業を通して、児童館の目的を達成するものと考えますが、少子化の影響、コロナ禍の中で児童館運営における課題を、先ほども答弁の中でございましたが、課題をどのように捉えられて、その課題解決に向け、行政内部ではどのような議論が行われているのかお聞かせいただきたいと思っております。

○議長(石橋邦彦君) 福祉保健部長。

○福祉保健部長(松岡政則君) まず、課題でございますけれども、一つには子供というのはやはり遊びの中で社会性などを学んでいくということが多いかと思っておりますけれども、少子化等の中でその機会が減ってきているというのが一つあるかと思っております。

それともう一つは、このコロナ禍の中で子育て関連施設でございますけれども、やはりイベント等も減ってくる、そういった中でなかなか利用する家庭が減少する、それによって家庭や保護者、子供たちの孤立化、そういったものがやはり進んでいる部分があるのではないかとこのところが課題として捉えております。

その解決に向けて、まず子供の遊びからということであれば、そういった場を提供する施設、

それからもう一つの子供たち、それから保護者に対する孤立化を防ぐというところでいけば、やはりそういったいろんな悩み等に寄り添った、そして困りを解決できるような施設、そういったものが必要だろうというところから、我々今回お示しをしております総合的な子ども支援拠点のような施設が必要だろうというところを考えているところでございます。

○議長(石橋邦彦君) 11番 中島議員。

○11番(中島章二君) それでは、児童館の設置目的と事業内容についてですが、日田市公共施設等総合管理計画を見ますと、幼児・児童施設の項目において、適切に維持管理を行い、人口の推移や利用者数の動向などを考慮しながら、耐用年限が経過する際には、施設の建て替えや統合・縮小を行うという方針が出されています。

このことから、日田市公共施設等総合管理計画個別施設計画(第1期:令和3年度~令和7年度)では、令和4年度から7年度にかけて中央児童館の集約化の検討となっております。施設管理計画については統合集約化という方針と読み取れますが、日田市が計画中的日田市総合的な子ども支援拠点事業の検討の中で、子ども・子育て支援について、児童館の役割はどのように捉えているのかお聞かせいただければと思います。

○議長(石橋邦彦君) 福祉保健部長。

○福祉保健部長(松岡政則君) 児童館も総合的な子ども支援拠点についても、子育て支援という目的でいけば同じだというふうに思っております。対象も、就学前から就学後も含めて幅広くございますので、支援拠点においても、子供の身心を育成して情操豊かにするという児童館としての役割を残しながら、相談体制を中心とした様々な子育てサービスができる、子育てサービスの充実を図っていきたいというふうに思っております。

○議長(石橋邦彦君) 11番 中島議員。

○11番(中島章二君) 今おっしゃっていただいている日田市総合的な子ども支援拠点についての令和3年12月における教育福祉委員会別紙資料に、設置場所として中央児童館を拡張する。設置理由に、市中心部に位置しており、図書館やAOSEの近く、子育て機能の集約が図れるとありました。集約化することが、周辺部と中心部の子育て環境格差を広げるおそれはないのか。先ほど移動児童館という考えもあるということをおっしゃっていましたが、児童館が現在4か所に設置されていることは、中央だけでなく周辺部にも必要性があるから設置していると思われる。どこに住んでいても同じサービスを受けるための方法についてどのように考えているのか、再度お聞かせください。

○議長(石橋邦彦君) 福祉保健部長。

○福祉保健部長(松岡政則君) 児童館の考えとしては、先ほどから申し上げているのが基本的な考えでございます。物理的にかなわない部分もございますけれども、それをどうやって均一のサービスに近づけていくかということを考えながら、中央児童館は中央児童館の役割というか、そういうものを果たしていきたいというふうに思っております。

○議長(石橋邦彦君) 11番 中島議員。

○11番(中島章二君) まず集約化という方針について、まずありますけど、まず、検討委員会

の中でも、児童館についての意見が出されていたものがございました。その中には、児童館については「子供たちが来やすいところになるのがいいんじゃないか」という御意見もあったかと思えます。この「子供たちが来やすい」という施設、それから設置場所についてのことが関係してくるかと思えます。中央児童館については中心部にございますし、子供たちが歩いて放課後にでも来れるような場所だと思いますが、先ほどから申し上げているように、周辺部になりますと、なかなか子供たちが自分だけで行くことのできない場所に設置されていたりしますので、そういったところへの対処の方法をこれまで検討されてきたことがあるのかお聞かせください。

○議長(石橋邦彦君) 福祉保健部長。

○福祉保健部長(松岡政則君) 今、議員がおっしゃったのは、逆に児童館のほうに子供たちを連れてくるというか、そういうことであれば、そういったやり方といいますか、そこまで検討というのはしたことはないというふうに思っております。

○議長(石橋邦彦君) 11番 中島議員。

○11番(中島章二君) これまで検討されていないということですけど、先ほど部長もおっしゃっていたように、利用の方法について移動児童館というような考え方があるということですが、送迎等、スクールバス等の活用等がもしかしたらできるのかもしれませんが、そういったところ、今後いろんな角度から検討いただいて、子供たちがどこに住んでいても対応できるような子育て環境をつくっていただければと思っております。

この質問の最後です。切れ目のない子育て支援においては、年齢による切れ目への対応もありますが、地域性による切れ目への対応も必要ではないでしょうか。少子高齢化が進んでいる日田市は、子育て支援事業を計画する中で、日田市全体を総合的な視点で骨格となるプラン、ビジョンを持つことが重要だと考えます。今後、児童館機能や周辺部で支援までしっかりと考え、子ども・子育て支援についてさらに拡充していくようなことを考えていただきたいと要望させていただきます。この質問は終わりにさせていただきます。ありがとうございます。